

# 介護職を、 一生モノに。

～介護職員定着に向けた取組事例～



ウェルカム!  
くまもと介護の扉

©2010熊本県くまモン



熊本県健康福祉部長寿社会局 高齢者支援課  
〒862-8570 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号(行政棟 新館4階)  
TEL 096-333-2215 FAX 096-384-5052

令和5年(2023年)3月 熊本県



もくじ

P2 はじめに



P3 CASE 01

介護ロボットでみんなに優しい介護を

社会福祉法人 真光会 特別養護老人ホーム 三和荘

P5 CASE 02

ロボット×ICTでご利用者ファーストの介護を

社会福祉法人 水光会 特別養護老人ホーム しらぬい荘

P7 CASE 03

ICTでスマート介護

社会福祉法人 上天草会 特別養護老人ホーム 梅寿荘



P9 CASE 04

ICTで短縮できた時間をご利用者のために

医療法人 孔子会 介護老人保健施設 孔子の里

P11 CASE 05

キャリアアップ支援でモチベーションアップ

特定非営利活動(NPO)法人 あやの里 グループホーム あやの里

P13 CASE 06

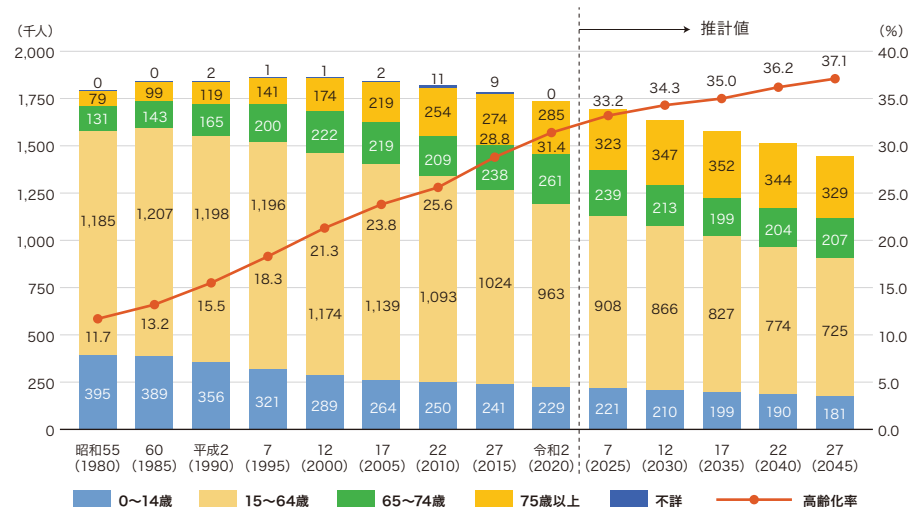
ご利用者の尊厳を大事にする自立支援を目指して

社会福祉法人 上ノ郷福祉会 特別養護老人ホーム こぼり苑

はじめに

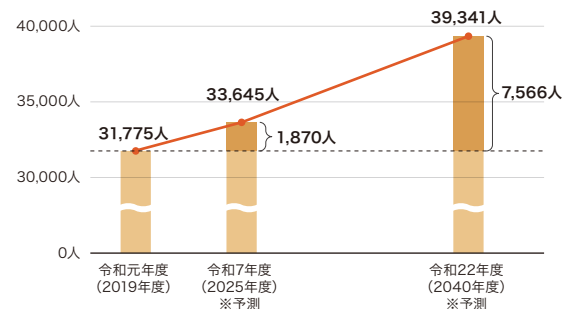
熊本県では、令和4年(2022年)10月1日現在で高齢化率が32.1%と、「県民の約3.1人に1人が65歳以上の高齢者」です。団塊ジュニア世代が65歳以上となり、高齢者人口がピークを迎える2040年頃には、高齢者人口に占める85歳以上人口の割合が上昇し、介護サービス需要や給付費は増加することが見込まれます。一方で、15歳から64歳までの生産年齢人口が急減することが見込まれ、全産業的に人材の確保が厳しい状況となります。高齢者の方が住み慣れた地域で、安心安全に暮らし続けられるためには、介護人材の確保や定着が喫緊の課題となっています。

●熊本県の高齢化の推移と将来推計



(資料) 昭和55~令和2年:総務省統計局「国勢調査」 令和7~27年:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成30年推計)  
(注) 令和2年の数値は令和2年国勢調査確定時に遡及改訂している。

●介護職員の必要数(熊本県)



(資料) 第8期熊本県高齢者福祉計画・介護保険事業支援計画

この冊子では、介護人材の定着に向け、介護現場の負担軽減や、キャリア支援など、県内施設・事業所で行われている様々な取組みの概要や、その効果などをご紹介します。

それぞれの取組みを参考にしていただき、各施設・事業所での取組みにつなげていただければ幸いです。





CASE

# 01

## 介護ロボットで みんなに優しい介護を

社会福祉法人 真光会  
特別養護老人ホーム 三和荘  
総合施設長 後藤 卓爾さん



左/ベッドから車椅子などへの移乗がとても楽になったと職員からも好評だ  
右/三和荘では、今後入浴介助をするロボットの導入を検討しているようだ



### 介護ロボット導入のきっかけと経緯

以前から介護職員は、日常にご利用者を抱え上げたり、持ち上げたりする動作をしていましたので、とても身体的な負担が大きいと思っていました。実際に腰痛で働けない職員も年間に数名出ていましたので、職員の負担を軽減し、腰痛を予防できる取組みがないかと探している中で「ノーリフティングケア」というものを知りました。

福祉用具・介護ロボットを導入したいという意見は、現場からも出てきましたので、2018年に3台導入しました。2019年に当施設でも「ノーリフティングケア」を宣言して2021年にかけて全てのベッド70台を電動化しました。2020年には浴室を改修してリフト浴を導入し、職員のさらなる負担軽減を図りました。

2020年から介護ロボットを5台追加し、合計で3種類8台の介護ロボットを整備しました。また、最近では、全てのトイレで介護ロボットを使えるように改修しました。

### 介護ロボット導入後の効果

以前は仕事に腰を痛めて帰らざるを得なくなった職員がいましたが、今ではそういった話を全く聞かなくなりましたし、職員からも以前のような力に頼った介護には戻れないという声をよく聞きます。また、従来二人体制で行っていた介助を、機械を用いることによって一人できるようになり、人員のメリットなどの効果も出てきています。

何よりも、ご利用者をロボットで移動させている時に、とてもリラックスした表情をされているのを見ると、これが最大の効果ではないかと思っています。



動画は  
こちらから







CASE

# 02

## ロボット×ICTで ご利用者ファーストの介護を

社会福祉法人 水光会  
特別養護老人ホーム しらぬい荘  
課長 藤井貴洋さん



左／ロボット導入で職員一人での移乗介助ができるようになった  
右／見守りシステムによりご利用者の状況を訪室なくとも把握できるようになった



### リフトロボット導入の経緯と効果

移乗用のリフトロボットを導入したのは3年前になります。それまでは職員2名介助でスライディングボードを使って移乗していましたが、食事時や入浴時などでは人手がどうしても足りなくなっていました。

導入当初は、ご利用者を「吊り下げる」ということに違和感を抱いた職員も少なからずいましたが、今ではなくてはならないものとなっています。明らかにご利用者の生活が変わりました。1名で移乗介助ができるようになったので、ご利用者をお待たせすることなくご利用者の都合に合わせて食事をとっていただいたり、お休みになっていただけるようになりました。

排泄介助の際は、ご利用者を支える人と衣服を着脱する人の2名必要となります。今後は1名で立位介助ができるスタンディングロボットの導入を図り、職員のさらなる負担軽減につなげたいと思っています。

### ICT機器導入の効果

ICTに関しては、令和3年度に館内全域にWi-Fi環境を整えたことによりその可能性が広がり、現在76台の見守りシステムを導入し、ご利用者の状況をリアルタイムで把握できるようになりました。以前使用していたセンサーは、ベッドから足が出たり、寝返りを打っただけで反応し、その都度職員がかけつけていましたが、見守りシステムを導入してからは、無駄な訪室がなくなりました。導入したシステムは、生体センサー機能もついています。終末期のご利用者様の見守りの補助として使用しています。





CASE

# 03

## ICTでスマート介護

社会福祉法人 上天草会  
特別養護老人ホーム 梅寿荘  
理事長／総合施設長 原田 英樹さん

動画は  
コチラから



左／インカムを使用することで職員間のスムーズな情報共有につながっている  
右／タブレットはいつでもどこでも即利用者の状況を入力できる



### ICT導入のきっかけと使用機器

介護業界の人材不足が避けて通れない時代、それをできるだけ補い、ご利用者に安心安全に生活いただけるよう最新のICTを導入したいと思ったのがきっかけです。現在は、「記録用のタブレット」「インカム」「みまもりセンサー」を主に使用しています。

タブレットは、ご利用者のバイタル、入浴の有無などを入力しています。機動性があり、必要な時に即記録ができるメリットがあり、非常に重宝しています。

インカムは職員同士で瞬時に連絡が取り合えるので、例えば館内にいるご利用者を探す時などに役立ちます。また、職員全員に話が伝わるので、連絡ミスが減りました。

みまもりセンサーは、職員から特に好評です。職員がご利用者と異なるフロアにいても、様子がすぐ分かるので、夜勤者にとっては精神的な負担が軽減できています。今後台数を増やし、有効活用していく予定です。

### 職員負担軽減のための今後の取組み

若い人から年配の職員まで、いろいろな人が介護の現場を支えています。マンパワーは必要不可欠ですので、職員一人ひとりに寄り添った環境整備をすることが大切だと思います。例えば、産休や育児休暇など子育てをしている人の支援、有給休暇の整備を進めていく予定です。さらには、ICT化の充実、介護ロボットを使つての移乗による負担軽減などにも取り組んでいきます。一人でも多くの職員が整った環境下で働きやすい職場をつくるのが出来るよう、努めていきたいと思っています。







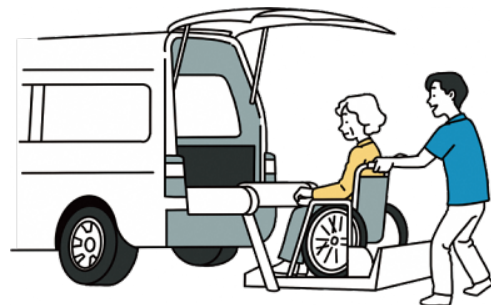
CASE

# 04



## ICTで短縮できた時間をご利用者のために

医療法人 孔子会  
介護老人保健施設 孔子の里  
顧問 松永 美根子さん



左/体温や血圧などのケース記録が瞬時に見やすくグラフ化される  
右/手動より速いと好評の音声入力システム



### タブレットとBluetooth機器の導入と効果

当施設はユニットケアのため、全介護職員でケース記録を共有する必要がありました。体温や血圧などは、都度メモを取った後にカルテに記載していたため、昼休みや勤務時間外に記入する職員もおり、業務の負担になっていました。また、手書きなので正確性と判読性に欠けていました。

そこで、タブレットとBluetoothを介してケース記録がタブレット、パソコンに自動入力される機器を導入し、職員の負担軽減を図りました。BMI、体重、血圧、食分量、水分量、排泄回数などの情報に、職員誰もが即座にアクセス可能に。タブレットは、同じ記録を何度も書かずに一括で入力でき、また期間設定をすることで状態の前後の変化を確認しやすくなりました。また、体温や血圧の変化がきれいなグラフとなって表示されるので見やすく、正確に状態が把握できるようになりました。

### 音声入力システムの導入と効果

パソコン・タブレット入力が苦手な職員のために、音声入力システムも導入しています。介護福祉業界に特化されており、例えば「移乗」などの用語も正確に入力されます。導入にあたっては委員会を設置し、勉強会を実施した他、希望する職員にはマンツーマン指導も行いました。システム導入後は、「長い文章でも容易に入力できる」「多職種との共有化ができた」「修正が容易できれい」という声職員から出ています。短縮できた時間を、私たちはご利用者のために有効に使いたいと思っています。





CASE

# 05

## キャリアアップ支援で モチベーションアップ

特定非営利活動(NPO)法人 あやの里  
グループホーム あやの里  
代表 岡元 奈央さん



左/コーチングなど外部講師を招いての講習も定期的に行っている  
右/リーダーはスタッフが働きやすくすることに注力するようになった



### マネジメント研修導入の きっかけと取組み

24時間365日、認知症のご利用者を見守るには、チームで関わるが大前提となります。そこで、マネジメント研修を導入しました。まず、外部の先生に入っただき、職員同士でどうやったらもっと現場が良くなるか、ご利用者の笑顔が引き出せるかという話し合いをすることから始めました。

次に、新人教育の構築に着手しました。新しく入る職員には、私たちの事業理念をきちんと伝え、しっかり理解してもらうようにしました。また、先輩が一人ずつ新人の世話役をするメンター制度を作りました。

さらに、キャリアアップの構築を図式化。どんな資格や経験を積みば管理者になれる、専門性を伸ばせるかということを見える化しました。

今後も現場の声を聞き、リーダーたちに課題を抽出してもらい、一緒に議論し改善するというサイクルを回していきたいと思っています。

### マネジメント研修導入後の効果

現場のリーダーからは、職員からの発信が増え、意見がまとまりやすくなったという声が聞かれるようになりました。また、職員みんなとコミュニケーションを取って、目指すべきあやの里の法人理念やこれからの目標を共有できるようになったので、以前より離職率が下がりました。

私個人としても職員との対話が増えたと思っています。職員は、経営者である私に最初は言いにくいことや遠慮があったと思いますが、同じテーブルで一緒に目標を共有する仲間として捉えてくれているのだと嬉しく思います。







CASE

# 06

## ご利用者の尊厳を大事にする 自立支援を目指して

社会福祉法人 上ノ郷福祉会  
特別養護老人ホーム こぼり苑  
施設長 宮崎 千恵さん



動画は  
こちらから



左／ご利用者に笑顔が増え、職員のやりがいにつながっている  
右／ご利用者の尊厳を守る介護についての勉強会を定期的に開催



### 自立支援を目指すきっかけと内容

介護保険が始まった時に、「自立支援」は大きな柱として謳われていました。自立支援は、高齢者の方ができることを継続する、維持するということが中心に置かれていました。そんな中で、特別養護老人ホームが要介護3以上の方しか入居できないルールになった時から、ご利用者の重度化・高齢化が進み、介護の負担が大きくなっていきました。できないことが増えていく高齢者の方を目の当たりにして、少しでもその方々が自分らしい生活を維持するためにできることをお手伝いできないかと思い、3年前から取り組みました。

具体的には、高齢者の方の身体機能維持に大事な「水分摂取」「歩行を確保するための運動」「排泄自立のための取り組み」「栄養をしっかり摂る」という人として大事な4つの基本ケアを見直し、それぞれを毎日職員同士が連携してしっかり取り組んでいます。

### 自立支援への取り組みと効果

まず、便秘が軽減し、排泄がスムーズになりました。さらに、失禁率が下がったので、おむつの使用が減りました。また、夕方になると意識疎通が難しくなりがちな方がいましたが、水分をしっかり摂ることで、今では自分の意思をしっかり持ち、覚醒して食事が摂れたりするなどの効果が見られています。

何よりも、ご利用者の方々が出来ることが増え、笑顔で毎日をご過ごされていることで、職員たちのモチベーションも上がり、以前にまして意欲的に仕事に取り組めるようになったことも喜びです。

